

最後のよしやれ

しこりところ何れいよ水しい

三越の通販から最後の盛夏号の来札

次第のように食品のついでに雑誌と別々

でよいがとばかりかもう来年は盛夏号は来ない

9日 当然物を買ふことが出来る

目も血のようにして必要なるものをさがす

もう五ヶ月前のイヌの産卵場をノトリの卵

うた 現在一急でいじり色9産卵場が来るか

それとふしやれはしさい毛ノトリの心

ほとともしいすぐ信又する、次にラゲテ

台所は立つ時定かつ妙にいと悪い、以前は

にまう瓦も9をしいてやる、でももう古い同

機はこれともしこい、これはもう瓦

ハクイアノ調の江やがどあり、ハクイの精粉

花を「中」のしした、マがマノ上、これっ

で台即もおしやれとる

次は「う」だ、現在取つても9か、はけるおどるか

ばくたらう畑は、三毛のうらうらも

食品はそれとこれ、とりまわし

何かう何かで三越のカタカタにたすうな目向
たう五

もう暫うととみまきいとなると 夢をどれ

くうい金存しとてこれ不明にた三越を若い

最後のふし如山木にたい かつて麻布にてと

思っていたのには麻のものをいふつわあうた

客観的に自うをながめるとバカだす ばうせ

あとな年とふい命のなとあう

でも「心の毛／＼と」と「ハイ」の「マ」
たうゆたかあき分を味あうた

おかし 美術鑑^たですうを絵にあきうてあうた

お柔の瑞実感だ

この何年内に三越の通販と共のうをいふ

又又ありかたう 三越